

総評

長野県本部各支部の皆さんのレベルの高い作品を審査させていただきありがとうございました。審査は大変苦勞しましたが1人1賞と云う制限の中ですので、最初の審査の時には何点か選ばれても一枚の作品に絞ることになります、これがなかなか難しいことでした。作品のテーマは様々でそれぞれレベルの高い作品がありましたがやはり人物の作品には力があり、上位にはそのような作品が多くなってしまいました。長野県には素晴らしい光景が沢山あり多くの方々の作品を見る機会も多く、どうしても厳しい目で見られることが多いので、独自の視点からの一工夫が必要ですね。

上位入賞作品講評

最優秀賞

「おばあの春」江尻 弘(長野支部)

桜の季節、農作業がひと息ついて休んでいるおばあさん。とても素敵な笑顔が撮影できています。言葉を交わしながらの撮影で、リラックスしたおばあさんは目がなくなりそうです。ちょっと下から見上げたアングルが良くて背景の雑木林に萌え出る雑草や桜をわずかに見せているのも春らしい季節感を感じさせます。

朝日新聞社賞

「溪谷で奏でる」宮島 政子(飯田支部)

どんな催し物なのか解りませんが、岩場の石の上で横笛を吹く少女が被写体です。暗い背景の中で白い衣装と緋毛氈の赤が鮮やかに対比して風雅な風情を漂わせています。シチュエーションを上手く利用した作品と言えるでしょう。単純な構成なので笛を奏でる少女だけを際立たせています。

全日写連賞

「風流な住人」 小林 芳夫(東信支部)

一見あばら家のような建物ですがしっかりと生活感のある佇まいです。その中から朝日？を浴びて寝巻のまま出てくる男、とても印象的な光景です。丸坊主で坊さんのような姿ですがどんな生活をしている人なのかと興味がわきます。温かみのある赤みを帯びた斜光線が美しい光です。フレーミングとともにタイミングよくシャッターを押した作品です。

優秀賞 1

「水辺を守る」 内山 卿子(穂高支部)

湖でしょうか広い水面に小舟を浮かべています。天気も良く水遊びには絶好の季節？と思いきや、水を守る作業の働く人たちでした。スイレンでしょうか沢山の葉が浮く水面を広角レンズで広々と表現し、水の綺麗さも一段と輝いて見えます。中央一点の構図ですが作業する舟を強調して上手くまとめています。

優秀賞 2

「敬礼!!」 有井 寿美男(東信支部)

何んともユーモラスな一瞬をものした作品です。鳥にとってはちょっと痒いところを掻こうと思っただけに！。キセキレイでしょうか黄色い腹の美しい鳥が撮影者に「敬礼」しているように見えますね。目のキャッチライトも効果的でこれだけ大きく捉えるための苦労が偲ばれます。

優秀賞 3

「超満開」 竹渕 正晃(松本フotクラブ 支部)

桜の花をダイナミックで力強く表現しました。直射日光のためコントラストが強くなり枝振りなどが黒く沈んで力がでました。中央部を開けて青空と白い雲を取り入れた構図は新鮮に映ります、花だけで構成するよりも樹木の力が増したようです。少し暗めの露出で彩度も上がり効果的でした。